

常光寺々報

2022. 3

春彼岸会法要

三月十九日(土)

朝十時～十二時

昼一時半～二時半

静岡東組 宝専寺 住職

講師 遠山 博文 先生

※ 空気循環のため、本堂は扉を開けて、床暖房とヒーターを併用いたします。

お経本とお念珠をお持ちください。
マスクの着用もお願いいたします。

花まつり

四月三日(日) 十時半～ 詳細未定

お釈迦様のお誕生日をお祝いしましょう。

コロナが世間を騒がすようになって二年が過ぎました。今年も無事お彼岸法要をお勤めできることを願っています。

ご講師の遠山先生とは、今から四半世紀も前の少年教化活動の折に、初めて一緒させていただきました。

定例法座や日曜学校だけでなく、伊東市ケーブルテレビ局のCVAニュースに毎週出演しご法話をされるなど、伝統的な布教方法から現代的な布教法まで幅広く実践されている先生です。



どうぞ、皆さまもこの度のご縁を大切にお参りされ、ご聴聞いただきますよう、ご案内申し上げます。

前住職還浄

令和四年一月十日午後九時、前住職弘誓院釋信行は、お浄土へ参らせていただきました。通夜・葬儀には大勢の方にご弔問をいただきありがとうございました。

前住職の父、私の祖父は農家の生まれでしたが、仏縁に遇いまして僧侶となりました。僧侶となった祖父は、満州国奉天にて布教使として勤め、終戦により長崎に帰った後は、郵便局長として生活をしていました。前住職は満州で僧侶の子として生まれ、長崎で郵便局長の子として育ちました。

一旦途切れたように見えた仏縁は坊守との出会いを通して、前住職を僧侶の道へと歩ませてくださいました。

その後は、僧侶として五十余年をこのお寺で過ごさせていただきました。本当に仏縁とは不可思議なものです。

亡くなる三日前に、坊守に「歎異抄」

第三章を読んでほしいと言い、「悪人」

の箇所で自分を指差し、安心したように目を閉じたそうです。

念仏には義無きをもって義とす

(歎異抄第十章)

我等の大迷は如来を知らざるにあり

(清沢満之師)

お念仏を大事にしなさい。

仏縁に遇わせていただいた慶びを大事にしなさい。

有ること難き南無阿弥陀仏が有難い。

前住職の常の言葉でした。

ご法義相続に務めてまいりたいと思いますが、独り者の私には気の利かないところ、抜けたところなど、手の回らないところが多々出てくると思います。どうぞ飽きずにご指導・ご鞭撻をいただきますようお願いいたします。

記念撮影

昨年の報恩講のおり、住職継職の記念撮影をさせていただきました。

令和二年の一月十四日に継職の手続きが終わり、同月二十九日に御本山でご門主から住職に任命していただくことができました。

同年五月に継職法要をさせていただきましたが、折からのコロナ禍でお勤めできずにおりましたところ、昨年十一月にお寺の青年会で集まった機会に「前住職と一緒に記念撮影だけでも」との声をいただき、役員のみならずと撮影させていただきました。

退院予定が伸びたために一緒に撮影することは出来ませんでした。前住職にも見てもらうことができ、最後まで部屋に飾らせていただいた一枚です。

南無阿弥陀仏



お寺のホームページからも寺報をご覧ください。

下記QRコードより

お入りください。

